

# 用法基盤モデルから辿る 第一・第二言語の習得段階

—スロット付きスキーマ合成仮説が示す日本語の文法—

橋本ゆかり 著

認知言語学の用法基盤モデルを援用し、日本語の習得がどのように進んでいくのかを解説している。前著において、筆者は長期にわたるフィールドワークにより、日本語を第一言語とする子どもと日本語を第二言語とする子どもの習得プロセスを明らかにし、その共通性から言語構造メカニズムである「スロット付きスキーマ合成仮説」を提示した。

本書では、当該仮説の妥当性を検討すると共に、第一言語・第二言語習得における習得段階の違いを示し、その要因を考察。年少者教育への示唆も示す。

#### 【著者紹介】

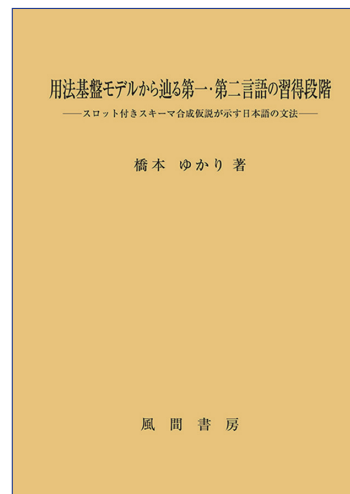
三井物産株式会社勤務後、2005年、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科言語文化専攻博士前期課程修了。2008年、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科国際日本学専攻博士後期課程修了。博士(人文科学)。千葉大学、早稲田大学、Vassar College 非常勤講師などを経て、現在、横浜国立大学教育学部、同大学院教育学研究科 教授。東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 教授、国立国語研究所共同研究員併任。専門は、第二言語習得、認知言語学、日本語教育、日本語学など。

#### 【主要著書】

『日本語多義語学習辞典—動詞編』アルク 2012  
『第二言語としての日本語習得研究の展望 第二言語から多言語へ』ココ出版 2016  
『教えよう 日本語—考え続ける日本語教師になるためのタスク—』凡人社 2016  
『よくわかる言語発達 [改訂新版]』ミネルヴァ書房 2017

#### 【受賞歴】

第27回新村出記念財団研究助成金(現 研究奨励賞)受賞 2009  
第1回第二言語習得研究会佐々木嘉則賞受賞 2012



#### 目次概要

- 第1章 研究の背景
- 第2章 本研究の目的と特徴
- 第3章 先行研究
- 第4章 研究課題と研究方法論
- 第5章 否定形式の研究—述語形の習得 その1—
- 第6章 願望形式の研究—述語形の習得 その2—
- 第7章 全部否定表現形式の研究  
—複雑な文構造の習得—
- 第8章 理由表現形式の研究—複文構造の習得—
- 第9章 総合的結果
- 第10章 総括

A5判・206頁・定価：本体 6,000円+税

ISBN 978-4-7599-2207-3

2018年4月刊・好評発売中

好評の既刊

橋本ゆかり 著

## 普遍性と可変性に基づく言語構造の構築メカニズム

—用法基盤モデルから見た日本語文法における第一言語と第二言語習得の異同—

A5判 288頁 定価：本体7,000円+税

ISBN978-4-7599-1898-4 2011年刊



風間書房

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-34  
電話 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757 振替 00110-5-1853  
http://www.kazamashobo.co.jp E-mail pub@kazamashobo.co.jp